

令和4年度

東北森林管理局保護管理委員会朝日山地森林生態系保護地域部会 議事概要

1. 日時及び場所

令和4年5月31日（火）13：30～16：00

朝日森林生態系保全センター（Web 開催）

2. 議題

- | | |
|----------------------------------|-------|
| ① 東北森林管理局保護林管理委員会における審議内容 | [資料1] |
| ② 巡視活動等報告 | [資料2] |
| ③ 朝日山地森林生態系保護地域モニタリング調査結果等について | [資料3] |
| ④ 森林生態系保護地域内の人工林から天然生林への誘導手法について | [資料4] |
| ⑤ 朝日自然塾について | [資料5] |
| ⑥ ニホンジカ確認情報について | [資料6] |
| ⑦ 関東森林管理局の連絡事項 | [資料7] |

3. 議事概要

③ 朝日山地森林生態系保護地域モニタリング調査結果等について

⑥ ニホンジカ確認情報について

【委員からの主な意見】

・九州や中国地方によると、シカ害が発生してから生態系の崩壊（植生消滅）になってしまうのがかなり早いスピードで起きている。モニタリングの結果をどう活かすのか、出来るだけ事前に、関係各位で話し合いをして検討すべきである。

・シカ食害が生じた際に、植物調査では、どの程度の生物多様性の消失があり、復元するにはどのような状態を目指せばいいのか目標設定が出来なかった。

兵庫県のシカ関係者間で、使用している昆虫のチョウ類トランセクト調査を行ってはどうか。一定の区間を歩いて見られたチョウを、一年間を通じて記録するという調査で、鳥や哺乳類は、移動力が大きく、トランセクト調査があると生物多様性のどの状態を維持しないといけないのかという目標設定や、シカ食害が起こった際に、どれほど損なわれたかという評価、また、復元への目標設定が出来るのではないか。

・チョウ類トランセクト調査については、飯豊朝日はチョウ類が少ないので効果は疑問である。

・チョウの種によっては、絶滅に近い種もトランセクト調査で分かってきているので、他の昆虫でも検討すべきではあるが、チョウは視認性が高いので提案した。

・令和4年3月に環境省自然環境局から届いた、令和3年度のニホンジカ及びイノシシの個体数推定及び生息状況等調査業務の報告書によると、特に、秋田県及び山形県もまだシカの生息密度が低いので、現状、生息数を示すことすらもできないくらいの個体数であり、関係機関で対策を検討する段階に至っていない。